



最新の賃貸経営お役立ち情報

USAGI通信

株式会社 学生ハウジング
We create a bright and affluent life

No411 2009/2/11

センター試験始まる

不況で「安・近・少」傾向

本格的な受験シーズンの到来を告げる大学入試センター試験が17日、全国738の会場で始まった。志願者数は前年より596人多い54万3981人。2日間で6教科28科目の試験が実施される。過去最多の797大学・短大がセンター試験を利用。志願者の内訳は、高校などの現役生が43万1263人(全体の79.3%)、既卒者10万6133人(19.5%)、高校卒業程度認定試験の合格者ら6585人(1.2%)となっている。今春、高校などを卒業予定の人のうちどれくらいが志願したかを示す「現役志願率」は、初めて4割を超えて40.4%となった。

大阪大の吹田キャンパス(大阪府吹田市)や京都大(京都市左京区)でも厳しい冷え込みのなか、受験生が続々と会場に向かった。

◇ 金融危機による景気悪化の波が、受験の場にも押し寄せている。大学入試センター試

験に臨んだ受験生からは、親の経済事情から一併願校を減らした「遠方の大学はあきらめた」といった声が相次いだ。費用がかからず、近い大学を選び、受験校数も減らす「安・近・少」を意識している様子が見え始める。

「学費のこともあるし、親元から通えるし」。大阪市東成区の私立高3年の山本知尋さん(18)は大阪府立大が第1志願だ。親や先生と相談し、私大受験は数校減らして3校に絞った。「親に負担をかけたくないから、奨学金も申し込むつもり」

京都府立高3年の女子生徒(18)も自宅から通学できる神戸大が第1志願。学費、ブランド力から国立大に進みたいと思っている。年明け、母親から「もったいないし、第1志望でないなら私学の出願を少し減らしたらどうか」と言われ、従うことにした。

大手予備校の河合塾が昨年暮れに行った調査では、全国1774人の高校教員のうち

67%が景気悪化が高校生の進路選択に影響を与えていると感じている。

2009年1月17日朝日新聞掲載

不況 → 「安・近・少」傾向 “私立より国公立”
“下宿より自宅通学”
“受験者数の減少”



供給過剰の市場で経済的負担の少ない物件に希望が集中すると予測されます。

USAGI通信はメールでの送信も可能です。メールでの送信を御希望の方は弊社ホームページ<http://3215.co.jp/>からメールアドレスをお知らせ下さい